

広重おじさん図譜

太田記念美術館(原宿) 23.02.03~03.26



「歌川広重」(1797~1858)は、風景画の名作を数多く描いた浮世絵師であるが、画伯の絵をよく見るとなにも味わい深い人物たちがたびたび登場することに気付く。本展は、彼らのこれらのことを親しみと愛着をこめて、あえて『おじさん』と呼び、その魅力を眺めてみようという企画での展覧会開催である。

無垢(むく)(潔白で純真)な笑顔のおじさん、仕事を頑張るおじさん、グルメを楽しむおじさん、ピンチであわてるおじさんなど、画伯が描くおじさんたちは、見れば見るほど個性豊かで愛嬌に満ちている。

歌川広重《東海道五拾三次内鞠子》ポスターのベンチに座る二人の男 一部



よく知られた「広重」の名作も、『おじさん』たちを通して眺めることで、今までとは違った新鮮なイメージで見えてくるのではないだろうか。

展示品は「およそ150点」で、主役は全て『おじさん』で保永堂版『東海道五拾三次之内』『木曾街道六拾九次之内』といった代表作が多く含まれるのは勿論、『おじさん』視点だからこそ選ばれた普段展示されることの少ない「レアな作品」も見逃せない「広重」の新たな魅力をたっぷりと紹介している。



歌川広重「東海道五拾三次之内 御油 旅人留女」(前期)



歌川広重「東海道五拾三次之内 四日市 三重川」(後期)



歌川広重「東海道五拾三次之内 三角 鞠子」(後期)



歌川広重「木曾街道六拾九次之内 拾九 碓井沢」(前期)



歌川広重「東海道五十三次之内 鞠子」(前期)